

三の七。それは男の世界である。まさしくマンダムの集団である。我らのクラスを理解するにはワイルドかつ雄々しく奔放、そして毅然たる男児であることを要するのは言うまでもない。思えば我らはこの一年、数多くのオナゴの求愛には目もくれず、ひたすら自らの思うままのことを時に優しく時に激しく行なってきたのである。(したがって先公には最も評判が〇〇ことは言うまでもない)

これら全てを暖き足と愛のムチをもって見つけてきたタコ仮面石村氏。彼は月光仮面ならぬタコ仮面と称しピンクのマフラーで女性徒の人気をかおうと必死になり、常に中年の笑いをうかべて、かのポンコツ車でタマよりも速く、さつそうと現われるのである。

”あ！タコ仮面だ”この一言で我らはどんなに勇気づけられ清掃をまじめにやろうと思つたことであろう。そして、どんなに励まされて欠課届を出そうと思つたことであろう。しかし思うだけで一度も実行しなかったのが残念でならない。

では紙面の許す限り次の種別にわけて我がクラスの野性児を紹介してゆこう。

一、特異な体肢をもつ奴ら・・・  
東京において真夏の太陽のもと、ただ一度あやまちを犯したために浅草男と尊敬される男、折祖。男性との体験豊かな小(赤)松、平谷らがこの中に含まれる。

一、女性に目をくれた裏切者・・・  
代表は及川である。彼は一年中起立したままボールに親しみ、春を楽しんだ憎き男である。守人も裏で女と何かあつたらしい。ベクトルの合成に必死な木村、アニマルな愛を迫求してきた川辺らも憎い。吉田、西川、牧野らも文化祭前後に男の世界からはみ出してしまった。(ちくしように、のろけるな！)

一、オオカミ男・・・  
昼はイイ男？、夜になると毛がはえキバをむき野獲と化す奴ら。それは小野寺・日野・河西・剛久といった男共である。女はこういうタイプにだまされねよう御用心。

一、怪獣的男共・・・  
家にセントラルヒーティングが入っていて朝風呂をあびて・・・と意気がつてみたために風呂屋のサンスケを夜のアルバイトにしたことこのバレた俊勝。女の子に見せられないような真似をする承平・白沢・牛袋・小田島・・・。奴らの戦いは日夜続けられている。

一、勉強の分業をひきうけている奴ら・・・  
お気づきの方もあろうが我がクラスでは勉強は次の者に任せて一年おくつて来たのだ。杉田・村純・勝義・小川・菅原・太田・・・。しかし誤解されては困る。彼らとて男だ。時には激しく身をふるわせて見せられないようなこともするのだ。

残念であるが紙面も残り少なくなってきた。まだまだ興味ある過去を背負ってきた奴らもいるのだが。

以上概略ながら三の七を紹介してまた最後に一言。我らは荒廃した一高生活、さらに楽しみもない三年生としての一年を通して、できる限り多くの交流の場を作ろうとしてきたスポーツ祭総合優勝後の夜、前期末テスト後のキャンプ。その他・・・。こうした中で皆は口をそろえて”三の七に入つて良かった”と叫んできた点を強調しておきたい。何ものにも捕われない自然児の集団としての三の七のようなクラスがこれからも生まれることを期待してるで。

あーあ疲れた。やっと終つた。ナニ！ワタシが誰だつて！ハハハハッ、私は月〇仮面と呼ばれる謎の人物だ！